

## 参考資料

### 兵庫県内の「歴史的資源を活かしたまちづくり」事例集

	取組名	取組地域	活用資源	ページ
調べる	勉強会を開催してまちの歴史を知る	三木市	まちなみ、町家、歴史、特産品	1
	ワークショップで住民の考えをとりまとめ	加西市	まちなみ、町家	2
発信する	地域での暮らしの魅力を情報誌で PR	宝塚市	農産物、郷土料理、自然	3
	体験型イベントでまちの魅力を発信	淡路島	古民家、農産物、郷土料理、自然	4
地域資源を使う	地域の特産品モロヘイヤを商品化	上郡町	農産物、特産品、自然	5
	マルシェやファッションショーで豊岡鞆を PR	豊岡市	特産品	6
建物を使う	アンケート等でニーズをつかみレストラン開業	丹波市	町家	7
	地元有志の団体が改修・運営	神戸市	町家、農産物	8
	用途に合った場所を選定	加西市	町家	9
	部分的に建物を活用	加西市	町家	10
	クラウドファンディングで空き店舗再生	加西市	町家	11
イベントを開催する	レトロなまちなみを体感できるイベント	洲本市	まちなみ、町家、農産物、海産物	12
	200年の歴史を持つ古民家を舞台に結婚式	三木市	古民家、特産品、文化	13
つなぐ	「町全体をホテルに」がコンセプト	丹波篠山市	まちなみ、古民家	14
	「銀の馬車道・鉱石の道」でつなぐ	播磨～但馬	歴史、産業	15
	酒蔵・町家・食・歴史をテーマにまちづくり	宍粟市	まちなみ、町家、特産品	16
	「北前船」で県域を超えたストーリー	高砂市	町家、歴史、産業	17
仲間を見つける	仲間づくりがイベント開催に発展	加西市	まちなみ、町家	18
環境を整える	住民とマップや看板など案内設備を作成	川西市	町家、歴史、特産品、文化	19
	かつての酒蔵通りを思わせる修景	伊丹市	まちなみ	20

# 勉強会を開催してまちの歴史を知る (三木市)

活用資源	まちなみ、町家、歴史、特産品
取組主体	三木市

## 概要

- ・三木市三木地区は、三木城の城下町で、戦国時代に三木合戦で荒廃したものの、羽柴秀吉によって復興された歴史を持っています。湯の山街道等の街道が交差する交通の要衝に位置し、江戸時代後期には「三木金物」の生産地として金物産業が発展、現在でも街道沿いに金物のまちを今に伝える伝統的な町家等が残っています。
- ・しかしながら、旧市街地の人口減少や高齢化が進んでおり、地域の活性化が求められています。そこで、まちに残る歴史的な資源を活用し、三木地区ならではのまちづくりを行っていくため、みんなでまちの将来像を描き、取組目標を共有できるビジョン作成に取り掛かることになりました。
- ・まずは、市役所関係課により取組をスタートさせ、改めてまちを知るための各部署からの情報提供や取組アイデアを考える勉強会を開催しました。
- ・歴史的な資源を活用したまちづくりというテーマのもとで、複数の部署が集まり、勉強会を重ねたことで、取組体制の連携が図られました。

## ポイント

ココが  
コツ！

- ・「出来ることからやってみよう」という考えのもと、まちづくり・企画・観光・歴史の分野で関係する担当者による勉強会を実施しました。そこでは、関係課が把握していた情報の共有や意見交換を行い、今後の取組方策の検討につなりました。
- ・まちの歴史や人口・高齢化の状況を調べ直し、まちづくり活動の状況について情報共有を行ったほか、まちにある歴史的資源の新しい価値や活かし方について話し合うことで、新たな取組アイデアの検討へとつなりました。
- ・勉強会では、県担当者や専門家（まちづくりコンサルタント）がファシリテーターを担うことで、活発に話し合える場をつくりだし、出席者の意見や考えを新たな取組のアイデアにまとめることができました。



勉強会の様子

この事例をもっと知りたい場合

三木市都市政策課



TEL 0794-82-2000

HP <https://www.city.miki.lg.jp/>

SNS  @miki\_city\_toshi

# ワークショップで住民の考えをとりまとめ (加西市)

活用資源	まちなみ、町家
取組主体	加西市

## 概要

- ・加西市北条町は、約 1300 年も続く住吉神社や酒見寺<sup>さがみじ</sup>の門前町として栄え、旧街道筋を中心に市場町・在郷町として発展してきた、古いまちなみが残る地区です。現在は、少子高齢化や空き家の増加等が進み、まちに再び賑わいを取り戻すことが課題となっていました。
- ・かなり以前から幾つかのまちづくり団体が活動していましたが、みんなでまちの将来像や目標を共有しながら取り組むため、ビジョンを作成することになりました。
- ・そこで、専門家と連携し、まち歩きや文献調査に加え、住民の思いや考えを共有するワークショップ「町屋くらし再生塾」を開催しました。これらを踏まえ、まちの賑わい創出に向けて町家の再生・活用方策等を定めた「北条旧市街地ビジョン」としてまとめています。
- ・このビジョンに基づき、市が 4 軒の空き店舗のリノベーションを誘導し、地域の団体や若者たちが運営する施設に生まれ変わりました。町を家に見立て、訪れた人にゆったり楽しんでもらう体験型イベント「北条コンネ」を定期的で開催するなど、ここから新しいまちづくりが動き出しています。

## ポイント

ココが  
コツ!

- ・まちづくりでは、まちの特徴・魅力をしっかり認識し、他のまちの取組を参考とすることは大切です。北条地区では、新しい視点でまちづくりを考えようと、先進的な取組を行っている大学の先生、まちづくり団体、建築士などの専門家を交えてワークショップを行いました。
- ・ワークショップの話し合いでは、まちの活性化に向けた交流の場、皆が立ち寄れる飲食店、来訪者のための宿泊施設、若者の起業を応援する場など、様々な取組が提案されました。この取組が、その後の実験的イベントも経て、4 軒の空き店舗リノベーションに結びついています。

こんな  
苦労が

- ・ワークショップの提案を実現していくためには、民間事業者など継続した取組を行う担い手が必要ですが、最初はなかなか担い手が見つかりませんでした。しかし、ワークショップを通じて、元地域おこし協力隊の方や地域のまちづくり団体の人的ネットワークが形成され、まちへの思いに賛同し、意欲的に事業を進める事業者に出会うことができました。



ワークショップの様子

この事例をもっと知りたい場合

加西市地域振興部きてみて住んで課



TEL 0790-42-8729

Mail kiteka@city.kasai.lg.jp

HP <http://www.city.kasai.hyogo.jp/>

SNS  まちなか春陽堂

 @hojo\_conne

# 地域での暮らしの魅力を情報誌で PR (宝塚市)

活用資源	農産物、郷土料理、自然
取組主体	宝塚にしたに里山ラボ

## 概要

- ・宝塚市西谷地域は市北部に位置し、田畑やため池などが広がる田園地帯で、豊かな自然や農産物、里山の風景が残っています。
- ・宝塚 N P O センター主催のソーシャルビジネス講座で出会った仲間によって設立された「宝塚にしたに里山ラボ」は、人口減少が進む西谷地域の魅力や楽しみ方を都市部に住む人たちに発信し、交流人口を増やすことで地域の活性化を目指しています。
  - ①冊子「レシピノート」の配布  
地域の農産物の魅力を発信するため、地域で収穫された野菜を使った料理を紹介する冊子を作成し、市内都市部の公共施設等で無料配布しています。
  - ②冊子「にしたにあそび note 木も土も葉もみんなともだち！」の配布  
豊かな自然での暮らしの魅力を発信するため、竹や木の実などを使った昔ながらの子どもの遊びを紹介する冊子を作成し、市内都市部の公共施設等で無料配布しています。
  - ③親子向け自然体験活動  
竹の器づくりや西谷の新米を楽しめる「ごはんフェス」やお餅つき、ぜんざい、たき火体験などの「里山の小さなおもてなし」など、地域の自然や暮らしを気軽に体験できるイベントを実施しています。

## ポイント

ココが  
コツ！

- ・30～40代のメンバーを中心に運営していることから、ニーズを把握しやすく、PRを通じたネットワーク形成がしやすい同世代の若い親子連れを主な対象に絞って活動を行っています。「おしゃれ」を意識してデザインした冊子や SNS により、ターゲットの目をひきつける工夫をして情報発信を行っています。
- ・SNS は複数の媒体の特徴を活かし、使い分けています。  
ホームページ：団体の紹介やイベント情報などを探しやすく整理して掲載  
Instagram：文字は少なく写真は多く、タイムリーな話題を投稿  
Facebook：しっかりとした文章と写真で、充実した情報を発信

こんな  
苦勞が

- ・当初のイベントでは、知識や経験が全くなく準備や運営に苦勞しましたが、地域住民や経験豊富な人たちと関係を築き支えてもらい、開催できました。レシピノート制作も、地元からの野菜の提供や撮影への協力が得られるなど、地域との絆は深まっています。



自然を使った遊びを紹介する冊子

この事例をもっと知りたい場合

宝塚にしたに里山ラボ



HP <https://www.nishitanilabo.com/>

SNS  @nishitanilabo

 @nishitanilabo

# 体験型イベントでまちの魅力を発信 (淡路島)

活用資源	古民家、農産物、郷土料理、自然
取組主体	NPO 法人あわじ FAN クラブ

## 概要

・「NPO 法人あわじ FAN クラブ」は、気候が温暖で、海・山・田畑などの自然・景観、農産物もある淡路島において、島への定住・交流人口の増加に寄与するため、淡路島の食、農、自然等の実体験を通じて島の魅力を発信する、以下の活動に取り組んでいます。

### ①体験イベントの実施

島の魅力を移住希望者に体験してもらうため、「食」では手作り味噌ワークショップ・伝統料理教室など、「農」では淡路島玉ねぎオーナー制度・落花生収穫など、「自然」ではウミホタル採集&星空観察会・野鳥観察会などを実施しています。

### ②多自然居住交流拠点施設「宙-おおぞら-」

古民家を改修して活動拠点とし、地元食材を使った食事の提供、様々なイベントやギャラリーの開催、移住希望者が住まいや仕事を見つけるまでの短期間滞在施設の運営を行っています。

### ③「あわじ暮らし総合相談窓口」の開設

兵庫県淡路県民局からの委託事業として、島への移住を希望する方に対し、電話や面談による相談を実施しています。

## ポイント

こんな苦勞が

・団体設立した直後は活動実績もなく、なかなか大きな取組が出来ませんでした。コツコツ取組を進めていくなかで、市から声を掛けられて国のイベントを成功させることができました。これをきっかけに行政から信頼されるようになり、県からの「あわじ暮らし総合相談窓口」の委託など、徐々に様々な事業を行うことができるようになりました。

ココがコツ！

・都市部からの先輩移住者である農家の方や大学生と協力して、体験イベントを運営しています。これにより、イベントに参加する移住希望者は地域の魅力に触れるとともに、先輩移住者の話を聞くこともできるため、単なる農業体験にとどまらない、移住や仕事につながるイベントとなっています。

・最近では、体験イベントの参加者が SNS を通じて臨場感あふれる楽しさや魅力を拡散してくれます。感動や新鮮な学びがある体験イベント企画は SNS との相性が良く、効果的に取組を知ってもらうことに繋がります。



農業体験イベントの様子

この事例をもっと知りたい場合

NPO 法人あわじ FAN クラブ



TEL 080-5339-1378

HP <http://awaji-fan.com/>

SNS  @awajifanclub

# 地域の特産品モロヘイヤを商品化 (上郡町)

活用資源	農産物、特産品、自然
取組主体	鞍居地区ふるさと村づくり協議会

## 概要

- ・上郡町鞍居地区は、豊かな自然や田園風景が広がる地域ですが、小学校・幼稚園が閉校・閉園となり、診療所や JA 支所も閉鎖され、少子高齢化・過疎化が進む地域でした。そんな時、中断していた金出地ダムの建設が再開されることになりました。住民はこれをチャンスと捉え、ふるさと再起をかけて「鞍居地区ふるさと村づくり協議会」を設立し、ふるさとの美しい自然や風景を子や孫に引き継ぐため、以下の活動に取り組んでいます。

### ①地域の特産品モロヘイヤの加工・販売

高齢化で生産者が減少していた町の特産品モロヘイヤの復活に取り組みました。無農薬栽培・葉っぱのみの手摘みにこだわった粉末加工品として商品化し、地域での販売に加え、アンテナショップ・通信販売もしています。

### ②「鞍居桃」の加工・販売

鞍居地区に自生する「鞍居桃」を 5 年前から地元の上郡高校生と協働し、実から育てた苗木を植樹、コンポートやジャムに加工し、地域で販売しています。

### ③金出地ダム自然植物公園構想事業

ダムに沈む希少植物を下流域で保護・育成し、ダム完成後上流の谷あいに戻して自然植物公園を整備しています。クライモモ・コヤスノキなど 10 種類 1,330 本を植樹しています。

### ④鞍居川生き物復活大作戦

ダム建設でいなくなった鞍居川流域の魚・昆虫・水辺の植物を守るため、子供達と一緒に作ったビオトープは、水遊びや環境学習の場となっています。

## ポイント

- ・活動を継続するためには資金を稼ぐ必要があることから、地域の特産品を活用して商品化を行い、販売することになりました。今では通信販売も行っているほか、ふるさと納税の返礼品となるなど好評を得ており、活動資金の確保だけでなく、地域を知ってもらうきっかけにもなっています。

ココが  
コツ!

- ・地元の上郡高校生との協働開発や住民ボランティアによる収穫・加工などにより、自分達が生まれ育った故郷の誇りや地域コミュニティの場となっています。
- ・鞍居地区にしかない鞍居桃の商品化にあたり、増殖が必要だったため、地元の上郡高校生と協働し、剪定・摘花作業の実施や栽培・繁殖方法の工夫を行い、実を大きくすることに成功しました。また、鞍居桃が持つ独特の苦味を活かして他との差別化を図るために試作を重ね、香りや甘味に加え、食べた後に若干感じる苦味を特徴とした商品化に成功し、完売するまでになりました。



住民ボランティアによるモロヘイヤ加工作業

この事例をもっと知りたい場合

鞍居地区ふるさと村づくり協議会



TEL 0791-54-0017  
(月・水・金 9~17 時)

HP <http://www.kuraimura.com/>

# マルシェやファッションショーで豊岡鞆をPR（豊岡市）

活用資源	特産品
取組主体	宵田商店街振興組合 宵田・元町地域まちなか再生協議会

## 概要

- ・豊岡市宵田・元町地域は、元は但馬の特産品が集まる賑やかな商店街でしたが、最近では人口減少や少子高齢化が進み、空き店舗増加などの問題を抱えていました。そのため、特産品である「豊岡鞆」をPRし商店街を活性化しようと、「宵田商店街振興組合」のメンバーが中心となり「宵田・元町地域まちなか再生協議会」を結成しました。現在は、「カバンストリート」を中心にまちづくりに取り組んでいます。
- ・振興組合と協議会が連携して、商店街に活気が出て多くの店が建ち並び、そこに若者が集まる地域にすることを目的に、以下の活動に取り組んでいます。
  - ①カバンストリートファッションショー  
レッドカーペットを敷いた商店街の道路をアイドルグループや地元住民等のモデルが歩き、豊岡鞆をPRする年一回のイベントです。その様子を動画でも配信しています。
  - ②カバストマルシェ  
「カバンストリート」を舞台として、定期的に手作りの品物や飲食ブースが出店するマルシェを開催しています。情報発信にとどまらず、マルシェで手応えを感じた職人によるカバンストリートでの本格的な出店にもつながっています。
  - ③まちなか複合拠点の提案  
高齢者も安心して暮らすことができ、若者も住みたくなるような、高齢者住宅・小規模保育園などを備えたまちなか複合拠点を提案するなど、持続可能な地域としていく構想を描いています。

## ポイント

ココが  
コッ!

- ・マルシェでは、鞆をデザインした共通ロゴを用い、鞆をモチーフとした商品の展示販売やテント形式の統一など、来訪者が「鞆」を意識する雰囲気をつくりだす工夫をしています。
- ・平成16年から取組を続け、来場者が増え知名度も上がり、空き店舗の所有者の理解が得られるようになって、空き店舗の活用が進んでいます。今では鞆店だけでなく、そこを訪れる人向けの飲食店も開店するようになりました。

費用  
は?

- ・活動資金は、県や市の補助金に加え、協賛金や会費により調達しています。また、カバンストリートでの店舗の増加にあわせて来場者も増加しており、収益を得ながら持続的な活動につながっています。



カバストマルシェプレミアム

この事例をもっと知りたい場合

カバンステーション  
(豊岡市中央町 17-14)



TEL 0796-22-2089  
定休日 木・日曜日 (祝日は営業)  
営業時間 11:00 - 18:00

HP <http://www.cabanst.com/>

# アンケート等でニーズをつかみレストラン開業（丹波市）

活用資源	町家
取組主体	株式会社まちづくり柏原

## 概要

- ・丹波市柏原町<sup>かいばらちょう</sup>は、八幡神社の門前町として、また柏原藩の城下町として栄え、現在も武家屋敷や町家、細い路地、水路など風情あるまちなみが残っています。
- ・町民有志によって設立された「株式会社まちづくり柏原」は、柏原の旧市街地に昔のにぎわいを取り戻すため、以下の活動に取り組んでいます。
  - ①テナントミックス事業  
まちづくり柏原は、空き家・空き店舗を把握し、地域ニーズのある業種・業態を踏まえ、出店希望者とのマッチングを行っています。その第1号で、まちづくり会社設立のきっかけともなったのが、イタリア料理店「オルモ」の開業でした。
  - ②街路整備事業  
まちづくり柏原は、城下町らしいまちなみ創出の一つとして、車道は土の雰囲気を感じられるアスファルト舗装、歩道は自然石の石畳舗装としています。
  - ③大学との連携  
関西学院大学生の活動の場として設けた「柏原スタジオ」を拠点に、学生がまち歩き等を通じて地域の歴史を学び、地域活性化にもつながるイベントを開催しています。

## ポイント

ココが  
コッ!

- ・オルモの開業にあたっては、ニーズの把握として住民へのヒアリング、ニーズを踏まえた店づくりとして評判の古民家再生レストランの研究など、市場調査に力を入れました。味やサービスを徹底的にこだわり、専門家のアドバイスも受けています。
- ・オルモはマスコミにも取り上げられ、遠方からの来店もあるなど人気店となりました。当初は「こんな場所でイタリアンなど…」との声もありましたが次第に賛同を得られ、地元の人々の理解や協力のもと、次の空き家活用にもつながりました。

こんな  
苦勞が

- ・当初、建物所有者は建物を取り壊して駐車場にすることを決めていました。そのため、建物を借りることに理解が得られませんでした。①建物の利用価値がある、②家賃を駐車場収入とほぼ同額とすることで理解を得て、借りることができました。

費用  
は?

- ・オルモの改修費 2,500 万円のうち、1,000 万円は県の空き店舗対策に関する補助金で、残り 1,500 万円は銀行からの融資（「まちづくり柏原」取締役が保証人）で調達しました。



イタリア料理店「オルモ」

この事例をもっと知りたい場合

株式会社まちづくり柏原



TEL 0795-73-3800

HP <http://www.kaibara.org/>

# 地元有志の団体が改修・運営 (神戸市)

活用資源	町家、農産物
取組主体	一般財団法人淡河宿本陣跡保存会

## 概要

- ・神戸市淡河町は、豊臣秀吉の命によって整備され、江戸時代には播磨地域と有馬温泉を結ぶ湯の山街道の要地として栄えた宿場町です。
- ・江戸～明治時代に大庄屋職を務めた村上家の本陣跡の敷地には、江戸～大正時代の建物が残っていましたが、60年間空き家となっており、老朽化が進んでいました。
- ・地域の貴重な歴史的資源である本陣跡を保存し、地域の活性化のために活用しようと、地域住民で組織する「一般財団法人淡河宿本陣跡保存会」が本陣跡の所有者と協議を重ね、土地・建物を取得し、改修を行いました。
- ・改修後は、様々な人々が集える交流・情報発信拠点として、淡河産の野菜販売、古民家コンサートなどのイベント開催、カフェ運営などを通じ、地域の魅力を発信しています。

## ポイント

ココが  
コツ！

- ・本陣跡のことを地域内外の人に深く知ってもらい、また親しんでもらうため、多くの地域内外の人たち参加のもと、季節の行事とあわせ、建物の清掃・修繕や庭園の手入れなどの管理作業をイベントとして開催しています。
- ・本陣跡は自由に用途変更が出来ない区域にありましたが、集落のコミュニティの維持・活性化のための用途変更であれば、規制が一部緩和されることになりました。それ以前から行っていた、地域活性化のために本陣跡の活用を目指す活動が、規制緩和の適用に向けてすぐに動き出すことにつながりました。
- ・設計や施工に長けた一級建築士や職人、HP やチラシ作成に強いアートディレクター、地元の農家、地域の食材を使う料理人など、まちを何とかしたいと願う様々な世代の人達が集まったネットワークがあります。それにより、得意分野を活かしながら、再生・活用を進めることができます。
- ・建物改修費 1,300 万円のうち、約 800 万円は県の「古民家再生促進支援事業」や市の「里づくりの拠点施設等改修支援事業」などの補助金で、残りの約 500 万円は地域の方々からの寄付金などで調達しました。

費用  
は？



イベントの様子

この事例をもっと知りたい場合

一般財団法人淡河宿本陣跡保存会



HP <https://www.ogo-honjin.com/>

SNS  @ogohonjin

## 用途に合った場所を選定 (加西市)

活用資源	町家
取組主体	加西市

### 概要

- ・加西市北条町は、約 1300 年も続く住吉神社や酒見寺<sup>さがみじ</sup>の門前町として栄え、旧街道筋を中心に市場町・在郷町として発展してきた、古いまちなみが残る地区です。現在は、少子高齢化や空き家の増加等が進み、まちに再び賑わいを取り戻すことが課題となっていました。
- ・そこで、まちの賑わい創出に向けての町家の再生・活用方策などを定めた「北条旧市街地ビジョン」を作成し、それに基づいて4軒の空き店舗を市がリノベーションし、再生することになりました。
- ・そのうち1軒は、空き店舗となっていた元和菓子店を改修し、飲食業にチャレンジしたい方等が厨房を時間単位でレンタルし、実践的なお試し出店などに利用できる、ソーシャルキッチン・カフェ「O Cha no Ma (おちゃのま)」として再生しました。
- ・自分の夢を叶えるため、食を通して人とつながり、新しい商品を生み出す食に関する実験の場として、まちを想う若者が立ち上げた「合同会社ワンダーアースクリエイト」、建物の改修を担当した「カワイデザインワークス」が共同で運営しています。

### ポイント

ココが  
コツ!

- ・飲食店であることやこの施設がまちの賑わいづくりに取り組んでいることをアピールし、地区外の出店者と地域住民の交流やネットワーク形成を図る場とするため、交通量が多く人の目に止まりやすい交差点にある建物を選定しました。
- ・内部の様子を見えやすくし、お客さんが入りやすいようにするため、通りに面した壁はガラス張りのデザインとしています。
- ・地域の住民が慣れ親しんだまちなみを崩さないように、外観の改修は必要最低限とし、和菓子屋だった頃の店名看板もあえて残しています。
- ・まちや店に対する一人ひとりの想いを木の板に書いてもらい、うろこのように貼り付ける「1111の想いプロジェクト」は、お店づくりに協力してこの場所を創り上げる取組で、応援してくれる人の増加につながっています。



「1111の想いプロジェクト」の木片

この事例をもっと知りたい場合

加西市地域振興部きてみて住んで課

TEL 0790-42-8729

Mail kiteka@city.kasai.lg.jp

SNS @o.cha.no.ma

# 部分的に建物を活用 (加西市)

活用資源	町家
取組主体	加西市

## 概要

- ・加西市北条町は、約 1300 年も続く住吉神社や酒見寺の門前町として栄え、旧街道筋を中心に市場町・在郷町として発展してきた、古いまちなみが残る地区です。現在は、少子高齢化や空き家の増加等が進み、まちに再び賑わいを取り戻すことが課題となっていました。
- ・そこで、まちの賑わい創出に向けての町家の再生・活用方策などを定めた「北条旧市街地ビジョン」を作成し、それに基づいて4軒の空き店舗を市がリノベーションし、再生することになりました。
- ・そのうち1軒は、以前は印章店として使われていた、築200年以上の歴史を持つ町家の一部を改修し、地域の人や子供が集い、世代を越えた交流ができる場「まちなか春陽堂<sup>しゅんようどう</sup>」として再生しました。
- ・地域団体「北条の宿まちなか活性化委員会」が運営し、料理教室や工作教室などの活動を行うことができる交流施設としています。運営団体が行う活動だけでなく、他団体がスペースをレンタルして行う活動にも利用されています。

## ポイント

ココが  
コツ!

- ・近所の人がかつろぎ、気軽にお茶を飲んだりする居場所とするため、地区のメインストリートに面して利用しやすい立地にあり、以前からまちづくり活動に利用されていて住民に馴染みもある建物を選定しました。
- ・建物は、通りに面した店舗部分すべてを交流拠点として使うには規模が大きすぎ、改修費用にも限りがあったことから、必要な部分のみを改修して利用しています。
- ・イベント等でスペースが足りない場合は、建物所有者の承諾を得て、普段は空き室となっている部分を使用しています。

費用  
は?

- ・市と連携して進めているまちづくり活動であり、建物所有者の理解もあって、固定資産税相当額の賃料で建物を借りています。



イベントの様子

この事例をもっと知りたい場合

加西市地域振興部きてみて住んで課



TEL 0790-42-8729

Mail kiteka@city.kasai.lg.jp

HP <https://machinakashunyoudo.wixsite.com/kasai>

SNS  まちなか春陽堂

# クラウドファンディングで空き店舗再生 (加西市)

活用資源	町家
取組主体	加西市

## 概要

- ・加西市北条町は、約 1300 年も続く住吉神社や酒見寺の門前町として栄え、旧街道筋を中心に市場町・在郷町として発展してきた、古いまちなみが残る地区です。現在は、少子高齢化や空き家の増加等が進み、まちに再び賑わいを取り戻すことが課題となっていました。
- ・そこで、まちの賑わい創出に向けての町家の再生・活用方策などを定めた「北条旧市街地ビジョン」を作成し、それに基づいて4軒の空き店舗を市がリノベーションし、再生することになりました。
- ・そのうち、通りに面して向かい合っていた2軒を、ゲストハウス「HOJO MACHI HOSTEL」、兵庫県立播磨農業高等学校の生徒がプロデュースする飲食店「はりまのちっちな台所」としています。改修にあたっては、市が負担する費用に加え、クラウドファンディングで得た資金も活用して再生しました。
- ・「HOJO MACHI HOSTEL」は、ゲストハウスだけでなく、宿泊客やまちを訪れた人の交流の場となるよう、コワーキングスペース・レンタルスペース・イベントスペースを設けています。「はりまのちっちな台所」は、飲食店舗内に子供が過ごせるキッズスペースを持つイベントスペースとしても活用できる場を設けています。

## ポイント

ココが  
コツ!

- ・すでに先行オープンしている2施設との連携（普段からの意見交換や合同イベントの実施など）が行えるよう、先行2施設の近隣で候補物件を選定しました。

費用  
は?

- ・「HOJO MACHI HOSTEL」は、改修費約 770 万円のうち、クラウドファンディングで目標 150 万円に対して 159 万円を調達しました。「はりまのちっちな台所」は、改修費約 1,010 万円のうち、クラウドファンディングで目標 200 万円に対して 235.4 万円を調達しました。
- ・「HOJO MACHI HOSTEL」では、改修費用を抑えるだけでなく、取組を応援してくれる人を増やしていくため、地元の左官職人の方の協力を得て、漆喰壁塗りや天井塗装の DIY ワークショップを開催しました。

歴史ある兵庫県加西市。ゲストハウスで再び人が行き交う街に!

HOJO MACHI HOSTEL

1,590,000円 (目標 1,590,000円)

2,354,000円 (目標 2,000,000円)

117 / 175 終了しました

はりまのちっちな台所

この事例をもっと知りたい場合

加西市地域振興部きてみて住んで課

TEL 0790-42-8729

Mail kiteka@city.kasai.lg.jp

SNS @hojo\_machi\_hostel

# レトロなまちなみを体感できるイベント (洲本市)

活用資源	まちなみ、町家、農産物、海産物
取組主体	城下町洲本再生委員会

## 概要

- ・映画館「洲本オリオン」を中心とした南北約 100m に伸びる路地は「レトロこみち」と呼ばれ、洲本城の城下町として栄え、現在でも古民家や細い路地など、どこかなつかしい風情あるまちなみが残る地域です。
- ・高齢化が進んで空き家も増えるなか、「自分たちの住むまちを何とかしたい」と思う住民が集まり、ボランティア団体「城下町洲本再生委員会」を結成しました。目的は、若者がまちなかで過ごせる場所や仕事づくり、まちへの居住者の呼び戻しです。
- ・レトロな雰囲気が残るまちの空き家を活かして1回イベントをやってみようと、淡路島の食材を使ったグルメや手作り雑貨などのお店を誘致して、まち歩きを楽しんでもらう「城下町洲本レトロなまち歩き」を開催しました。今では年2回開催し、地域内外より、子どもから年配の方まで1万人以上が訪れるイベントになっています。
- ・このイベントをきっかけに観光客が増え、まち歩き・淡路島グルメ・おしゃれ雑貨で賑わう路地になっています。現在「レトロこみち」で展開している26店舗のうち、23以上の出店者が地域の空き家を活用してお店を開業させており、「レトロこみち」だけでなく近隣商店街においても、地域全体の日常的な賑わいづくりが広がっています。

## ポイント

ココが  
コツ!

- ・活用する空き家を見つけるにあたり、所有者の理解が得られず、一般的に苦労することが多いと言われます。城下町洲本再生委員会では、子育て支援や高齢者の見守り活動をするなど、地域との信頼関係を築いている地元出身の会長がいることで、所有者から空き家の使用に同意を得られやすくなっています。
- ・イベント2週間前に震度5の地震があり、この地域も被害を受けたことがありました。しかし、急なアクシデントでも、普段から地域との関係を大切にしながら取り組んできたことで、それを見て応援してくれるようになった地域住民やボランティアの方から落ちた瓦の片づけや屋根へのブルーシートかけなどの協力が得られ、開催にこぎつけることができました。
- ・当初は助成金を中心とした運営でしたが、継続した取組により、協力・応援してくれる人が増え、最近では寄付金や協賛金で賄える部分も多くなりました。

費用  
は?



イベントの様子

この事例をもっと知りたい場合

城下町洲本再生委員会



TEL 090-5167-6988 (野口)

HP <http://sumoto-retro.blogspot.com/>

SNS  城下町洲本レトロなまち歩き

# 200年の歴史を持つ古民家を舞台に結婚式 (三木市)

活用資源	古民家、特産品、文化
取組主体	三木市

## 概要

- 三木市三木地区は、三木城の城下町で、戦国時代に三木合戦で荒廃したものの、羽柴秀吉によって復興された歴史を持っています。湯の山街道等の街道が交差する交通の要衝に位置し、江戸時代後期には「三木金物」の生産地として金物産業が発展、現在でも街道沿いに金物のまちを今に伝える伝統的な町家等が残っています。
- 三木地区の「旧玉置家住宅」は、江戸時代に切手会所（銀行）として建築された国登録有形文化財で、一般公開され、住民ボランティア団体がガイドやカフェ等を行うとともに、古民家の魅力を活かした様々なイベントも開催されています。
  - ①古民家ウエディング  
日本の文化や伝統的建造物の良さを知ってもらい、海外からの誘客につなげるため、外国人に和風の結婚様式を体験してもらいたいイベントです。
  - ②玉置さん家のお酒まつり、玉置さん家のビアガーデン  
三木市が酒米「山田錦」の日本一の産地であることを活かして、旧玉置家の庭で、地元の日本酒やビール、地元飲食店が出店するグルメなどを味わうイベントです。
  - ③春を告げるお雛さま展  
伝統・文化を肌で感じてもらうため、玉置家が所蔵していたお雛さまを展示するイベントで、近隣の町家や資料館と連携してスタンプラリーも行っています。

## ポイント

ココが  
コツ！

- 市役所職員発案の「古民家ウエディング」は、初めての試みでノウハウもなく実施に不安がありました。関係者に取組の趣旨や熱意などを伝えていくことで、関西国際大学の同好会「ウエディングラボ」、玉置家で普段活動している住民ボランティア、近隣の大宮八幡宮など多くの方々の協力を得ることができ、実現しました。
- まずは「古民家ウエディング」を知ってもらうため、旧玉置家での結婚式を希望するカップルを募集、試行的に実施しました。この経験を活かし、今後は本格的にブライダル業界と連携した事業化を目指しています。
- 他にも、すでに旧玉置家で実施中の古民家カフェについて、来訪者の満足度アップに向け、内容を充実させる試みも行っています。十分な予算がないため「まずはできる範囲で」と、期間限定のお試しで、カフェスペースをこれまでの土間から趣のある蔵内部に移し、ゆっくりくつろげる空間にしてみました。この取組を通じて市とボランティアの関係が深まり、またボランティアのモチベーションも上がって、次の取組の検討へとつながっています。



結婚式の様子

この事例をもっと知りたい場合

三木市観光振興課



TEL 0794-82-2000

HP <https://www.city.miki.lg.jp/>

SNS  @miki\_city\_sangy

# 「町全体をホテルに」がコンセプト (丹波篠山市)

活用資源	まちなみ、古民家
取組主体	NOTE グループ (一般社団法人ノオト、株式会社 NOTE)

## 概要

- ・「一般社団法人ノオト」及び「株式会社 NOTE」(以下「NOTE」)は、空き家となった古民家等の再生・活用による地域の活性化や雇用創出に向け、専門家や組織と連携し、調査から計画、開発、運営までを面的なまちづくりとして取り組んでいます。
- ・兵庫県内での主な取組は以下の通りです。また、全国でも様々なプロジェクトや地域づくりに関わっています。
  - ①篠山城下町(丹波篠山市)  
江戸時代から城下町として栄え、現在でもその趣を残す、重要伝統的建造物群保存地区です。まちを1つのホテルに見立て、再生した町家を宿泊棟、レストラン、雑貨店、カフェなどの施設として活用し、それらをまち全体に配置しています。それにより、訪れた人は楽しくまちを巡ることができます。
  - ②集落丸山(丹波篠山市)  
山間部にある丸山集落は自然豊かな風景を残していますが、12戸のうち7戸が空き家となっていました。空き家の古民家を改修して宿泊施設「集落丸山」とし、集落を訪れる人を増やすことで、耕作放棄地の解消や移住へとつなげています。
  - ③大屋大杉(養父市)  
養蚕農家が多く残る重要伝統的建造物群保存地区です。空き家を宿泊施設「大屋大杉」として再生・活用し、集落の方々と運営しています。

## ポイント

ココが  
コツ!

- ・篠山城下町のようにまち全体を対象に取り組むためには、エリアプロデュース・マネジメント・金融・建築・行政など様々な分野の専門家が必要です。NOTE は7年間で30棟以上の古民家を再生しながら様々なノウハウを蓄積し、NOTE としての事業スキームを確立し、面的なまちづくりを実現しています。
- ・住民あるいは事業者だけでは取組を継続することは難しいことから、集落丸山や大屋大杉では、地域住民は宿泊施設の運営、NOTE はノウハウやスキルのサポートなど、役割を分担しながら取り組んでいます。

費用  
は?

- ・空き家活用にあたっては、例えば、建物を15年間無償で借り上げ(固定資産税相当額をNOTE が負担)、資金は金融機関等を通じて調達、用途に応じて改修、これを事業者へ転貸、15年間の家賃収入で資金回収する「サブリース方式」があります。その他、建物の利用条件に応じ、NOTE が建物を購入・改修・事業者への売却する「転売方式」など5つの方式により活用を進めています。これにより、テナントの事業継続と安定した収入確保を実現しています。



ホテルの宿泊棟

この事例をもっと知りたい場合



一般社団法人ノオト/株式会社 NOTE

TEL 06-7878-8983

HP <https://team.nipponia.or.jp/>

# 「銀の馬車道・鉱石の道」でつなぐ (播磨～但馬)

活用資源	歴史、産業
取組主体	日本遺産「銀の馬車道・鉱石の道」推進協議会

## 概要

- ・<sup>しかまづ</sup>飾磨津（現姫路港）から<sup>いくの</sup>生野鉱山、<sup>なかぜ</sup>中瀬鉱山まで連なる 73km の道は、かつては鉱山の採掘・製錬に必要な機械や日用品などの物資と金・銀・銅の鉱産物を運ぶ馬車や多くの人びとで賑わっていました。今でも鉱山跡や馬車道をはじめとした多くの遺産が残っており、日本遺産「銀の馬車道・鉱石の道」として認定されています。
- ・これらの遺産を活かし、地域活性化や観光振興を図るため、行政・企業からなる日本遺産「銀の馬車道・鉱石の道」推進協議会が、以下の活動に取り組んでいます。
  - ①多方面からの情報発信  
広範囲に点在している地域資源をつなぐストーリーを分かりやすく伝えるため、PR 映像を作って YouTube で公開するとともに、SNS を使った効果的な発信方法を学ぶワークショップを開催して住民による情報発信も進めています。
  - ②沿線をめぐるイベントを開催  
自転車と列車で沿線をめぐり、地元スイーツも楽しめるサイクルトレインやバスツアーなどのイベントを開催しています。
  - ③アートによるストーリー化  
鉱石の道ゆかりの鉱物、馬車道の沿線にあった鉱山町の風習や文化をテーマとしたモニュメントを沿線地域に設置する「金・銀・銅文化プロジェクト」を展開し、アートで結んでいます。

## ポイント

ココが  
コッ！

- ・沿線では、協議会だけでなく様々な団体が地域活性化に向けて活動していますが、「銀の馬車道・鉱石の道」をテーマとしたイベントの開催により相乗効果を得ることができます。
- ・サイクルトレインは、サイクリングを通して参加者に銀の馬車道・鉱石の道の景色や名物を楽しんでもらうことで広範囲に点在している資源の魅力を知ってもらい、エリア内外への認知度向上、再度の来訪につなげています。
- ・住民団体にとっては、「銀の馬車道・鉱石の道」というテーマを通して自分たちの活動範囲を広げることができ、新たなターゲットへの情報発信、仲間づくり・ネットワーク形成につながります。それを意識した取組内容とすることで、地元の観光ボランティアなど、多くの関係者との連携・協力体制の実現に結び付けています。



サイクルトレインの様子

この事例をもっと知りたい場合

日本遺産「銀の馬車道・鉱石の道」  
推進協議会



TEL 079-281-9034

HP <http://wadachi73.jp/>

SNS  @wadachi73

# 酒蔵・町家・食・歴史をテーマにまちづくり (宍粟市)

活用資源	まちなみ、町家、特産品
取組主体	よいまちプロジェクト

## 概要

- ・宍粟市山崎地区は城下町として発展し、自然豊かな最上山の麓に町家、酒蔵、寺社などが残り、歴史的なまちなみ景観を形成している地域です。
- ・人口減少や空き家の増加が進むなか、観光客・交流人口の増加や産業の活性化を目指し、地域住民でつくる「よいまちプロジェクト（山崎中心市街地活性化委員会）」が、古くから残る酒蔵・町家・食・歴史などの資源を活かし、以下の活動に取り組んでいます。

### ①町家の再生

空き家となった町家を改修し、日本酒バー、炭火焼き鳥&そば、レンタルキッチン&訪問看護ステーションなど、テーマに沿って、地域の人も外から来る人も楽しめる施設に再生しています。

### ②「よいまちハイカラフェスタ」の開催

歴史的なまちなみを舞台としてさまざまな資源の魅力を発信し、観光客・交流人口の増加につなげるため、古民家で手作り雑貨や地元の特産品、スイーツなどを販売するほか、日本酒の試飲・販売会などを実施しています。

### ③都市部でのPR

神戸元町商店街において「山崎酒蔵通りから地元素材をお届けマルシェ」を開催し、日本酒「三笑」、アマゴの塩焼き、宍粟牛食べ歩き、野菜の即売を実施するなど、都市部の人たちにもPRしています。

## ポイント

ココが  
コツ！

- ・宍粟市が「発酵のふるさと」と言われていることから、江戸時代から造られていた日本酒「三笑」の約40年ぶりの復活・神社での蔵出し、女性蔵人による日本酒バーの開業、ライトアップした酒蔵通りで地元の食や地酒を楽しめる酒蔵まつりの開催など、地域の協力を得ながら、歴史ある資源を組み合わせ、まちの魅力を向上させています。
- ・「よいまちハイカラフェスタ」では、はかまなどの着物をレンタルしてまち歩きをしてもらうことで、参加者に楽しみながら歴史的なまちなみの雰囲気味わってもらうとともに、SNSによる外部への情報発信につなげています。

こんな  
苦労が

- ・町家の再生に取り組み始めた当初は、空き家所有者の理解がなかなか得られず苦労しましたが、地道な交渉・開業の実績・イベント開催など様々な取組を進めることで、町家再生の話が前に進むようになりました。また、地域の事業者や住民による開業への後押しや継続的な支援も行い、開業希望者の発掘にも取り組んでいます。



活動拠点「よいまちや」

この事例をもっと知りたい場合

よいまちプロジェクト  
(山崎中心市街地活性化委員会)



TEL 0790-62-2365 (宍粟市商工会内)

HP <https://www.re-yamasaki.com/>

SNS  @yoimachi\_project

 @REyamasaki

# 「北前船」で県域を越えたストーリー (高砂市)

活用資源	町家、歴史、産業
取組主体	高砂市

## 概要

- 高砂市高砂地区は、江戸時代、北海道・東北・北陸と西日本を結んだ西廻り航路を行き交う「北前船」の寄港地で、港町や海運などに関連した遺構やまちなみが残る地域です。西廻り航路は経済の大動脈で、北前船により各地に繁栄がもたらされました。こうしたことから、高砂地区など日本海や瀬戸内海沿岸にある北前船の寄港地や船主集落は、16道府県にまたがる壮大なストーリーとして日本遺産に認定されています。
- 兵庫県内では神戸市・高砂市・赤穂市・洲本市・姫路市・たつの市・新温泉町が認定されています。そのうち、高砂市ではストーリーを構成する資源として、以下のものが位置づけられています。
  - ①工楽松右衛門旧宅  
北前船にも使われた帆布の製造法発明、海運業、港湾改修などを行った工楽松右衛門の旧宅で、舟板塀、井戸、炊事場など当時の生活の痕跡を残しています。現在は、地域の歴史文化を発信する拠点として一般公開されています。
  - ②高砂地区のまちなみ  
北前船も寄港した港町で、町家・社寺・近代建築等が建ちならんでおり、兵庫県歴史的景観形成地区に指定されています。
  - ③高砂堀川遺跡、常夜灯  
北前船が寄港した高砂港で、兵庫県指定史跡に指定された堀川護岸の石垣、舟の積荷を揚げ降ろしする雁木（石段）などの船着場の遺構、船乗りにも位置を知らせた高砂神社の常夜灯が残されています。

## ポイント

ココが  
コッ!

- 高砂地区の兵庫県歴史的景観形成地区指定や工楽松右衛門旧宅の改修など、まちなみを守り、資源をみがく地道な活動が、県域を越えた日本遺産の認定への後押しともなり、地区のブランディングにつながりました。
- 日本遺産に認定された県内7市町が協力し、県民イベント「ふれあいの祭典」で「北前船寄港地市町観光・物産コーナー」を共同で出展、同時期のイベント開催など、ストーリー化されることで深みのある連携や取組となり、資源としての価値が高まっています。
- まちなみや工楽松右衛門旧宅など日本遺産のストーリーを構成する資源だけでなく、地区周辺の商店街や寺社も含めたまち歩きイベントを開催することで、認定された資源の枠を超えて連携が生まれ、さらなる賑わいづくりが実現しています。



工楽松右衛門旧宅

この事例をもっと知りたい場合

高砂市産業振興課



TEL 079-443-9030

HP (一財) 高砂市観光交流ビューロー  
<http://www.takasago-tavb.com/sightseeing/>

# 仲間づくりがイベント開催に発展 (加西市)

活用資源	まちなみ、町家
取組主体	民間事業者

## 概要

- ・加西市北条町は、約 1300 年も続く住吉神社や酒見寺<sup>さがみじ</sup>の門前町として栄え、旧街道筋を中心に市場町・在郷町として発展してきた、古いまちなみが残る地区です。現在は、少子高齢化や空き家の増加等が進み、まちに再び賑わいを取り戻すことが課題となっていました。
- ・そこで、「北条旧市街地ビジョン」に町家の再生・活用方策等を位置づけ、市が4軒の空き店舗のリノベーションを誘導し、各施設別々の事業者による運営で活用が始まりました。当初は仲間づくりも兼ねた4施設の情報交換の場として始まった集まりが、今後の取組を議論する定期的な意見交換の場に発展しました。年末には4施設合同の年越しイベントを開催するなど、積極的にまちづくりを進めています。
- ①まちなか春陽堂（地域交流拠点）  
地域団体「北条の宿まちなか活性化委員会」が、地域の人や子供たちが集い世代を越えた交流ができる場として運営
- ②O Cha no Ma（ソーシャルキッチン・カフェ）  
飲食業にチャレンジしたい方等が、実践的なお試し出店などに利用できる場として、「合同会社ワンダーアースクリエイティブ」「カワイデザインワークス」が運営
- ③HOJO MACHI HOSTEL（ゲストハウス）  
「NPO 法人 ZIBASAN」の下で、コワーキングスペース・イベントスペースを持つゲストハウスとして個人が運営
- ④はりまのちっちゃな台所  
「はりまのちっちゃな台所サポート委員会」の下で、地区周辺に多い子育て世帯をターゲットに、子供が過ごせるキッズスペースやイベントスペースを持つ飲食店として「株式会社シャルム」が運営

## ポイント

ココが  
コツ！

- ・複数の団体や事業者の連携に向けて、仲間づくりも兼ねた情報交換の場を持つことは大切です。北条地区では、当初、継続した取組に向けて連携の必要性は感じつつ、各自の事業を軌道に乗せるため情報交換を行っていました。こうした中、県と市の呼び掛けで、世代を越えて様々な人が定期的に意見交換を行う場に発展しました。
- ・ここでは、老若男女のメンバーが良好な人間関係を育み、議論の場でありながら安心感あふれる居場所にもなっています。また、若い運営者は若者受けする企画の提案、地域団体は地域ニーズの拾い上げや地域との橋渡しなど、幅広い世代がそれぞれの良さを活かすことにつながり、新しい価値を創り出しています。
- ・活動の幅を広げるため新しい仲間づくりにも積極的に取り組み、地区内の空き店舗を行政の支援なしにリノベーションし、開店した事業者が仲間に加わっています。



意見交換の場

### この事例をもっと知りたい場合

加西市地域振興部きてみて住んで課

TEL 0790-42-8729

Mail kiteka@city.kasai.lg.jp

SNS @o.cha.no.ma

まちなか春陽堂

@hojo\_machi\_hostel

@harimasmallkitchen

# 住民とマップや看板など案内設備を作成 (川西市)

活用資源	町家、歴史、特産品、文化
取組主体	ヒガシタニズム実行委員会

## 概要

- 川西市東谷地区は、豊富な鉱脈として知られる多田銀銅山の製錬で栄えた町です。大正時代に能勢電鉄が開通したことで周辺の里山地域への玄関口となり、産物・人・文化が集まる賑やかな地域でした。旧平安家・旧平賀家などの歴史的な建物、製錬所跡、獅子山の城跡、三十三所観音石仏など様々な地域資源を有しています。
- 「ヒガシタニズム実行委員会」は、地域住民と一緒に東谷地区の歴史や地域資源を再認識しながら、地区内外へ広く情報発信し、地域に誇りを持ち、次の世代へ受け継いでいくことを目的に、以下の活動に取り組んでいます。
  - ①まち歩きマップの作成、コースの整備  
地域の歴史・文化を気軽に楽しく知ってもらえるよう、古地図まち歩きマップや三十三所観音石仏巡りマップの作成、城跡や山の尾根にある三十三所観音石仏巡りコースの清掃や整備を行っています。
  - ②「東谷ズム」の開催  
大正時代の賑やかさを再現し地域の歴史を知ってもらうため、歴史的建造物や製錬所跡などが残る川西市郷土館を舞台に、音楽イベント、飲食物販売、歴史講談、一人芝居、殺陣、獅子山の城跡の歴史ハイキングなどを実施しています。
  - ③地域ならではの特産品開発  
地域の老舗和菓子店と一緒に、製錬する時に出る「からみ」と呼ばれる鉱滓をモチーフとしたまんじゅう「からみの刻」や、製錬のまちをPRする新たな東谷みやげ「製錬所カレー」を開発し、販売しています。

## ポイント

ココが  
コツ！

- イベントや清掃活動等は、団体のメンバーだけでなく、自治会、消防団、寺社、商工会、能勢電鉄、郷土館スタッフ、地域内外から集まったボランティア「東谷ズムサポーターズ」と協力して実施し、地域住民や興味を持つ人との交流や仲間づくりにつながっています。
- 地域の歴史や資源を知ってもらい、長く愛着を持ってもらえるよう、地域住民と共に手作りしたイラスト入りの案内看板を設置しています。
- 地域をPRするイメージキャラクター「すず」は、「東谷ズムサポーターズ」のイラストレーターでもあるメンバーがデザインしました。仲間の中には様々なスキルの持ち主がいると考えられるので、取組に応じて発見していくことが大切です。



清掃活動

この事例をもっと知りたい場合

ヒガシタニズム実行委員会



TEL 090-1742-1408 (東)

HP <http://www.higashitanism.net>

SNS  @higashitanizumu

 @higashitanism

 @higashitanism

# かつての酒蔵通りを思わせる修景 (伊丹市)

活用資源	まちなみ
取組主体	伊丹市

## 概要

- ・伊丹酒蔵通りは、江戸中期から酒造業が盛んで、町家・酒蔵・寺院などが集積する郷町として栄えた地域です。
- ・酒蔵通りは伊丹郷町を東西に結ぶ歩行者空間で、長寿蔵（酒蔵を利用したレストラン）、大溝（江戸時代の石組排水溝を再現したもの）、本泉寺、有岡城跡など伊丹を特徴づける歴史的資源が残っています。これらの資源を活かしながら、市民や多くの来街者が集い、歴史を感じられる沿道空間づくりに取り組んでいます。
- ・平成元年頃から、歴史的なまちの雰囲気演出する景観まちづくりとして、歩行者優先道路化や美装化、街路灯整備を行っています。
- ・また、伝統的な酒蔵や寺院、町家の景観を大切に守るため、通りに面する建物の窓・壁のデザインや色彩・高さなどの基準をつくるとともに、行政の助成事業も活用しながら、景観を誘導しています。これにより、まちなみに伝統的デザインが取り入れられ、歴史的景観が形成されています。
- ・実際に、町家をイメージした飲食店が新たに建てられたり、地区内の商店主たちが協議会（伊丹酒蔵通り協議会）を立ち上げ、様々なイベントが開催されたりするなど、景観まちづくりと賑わいづくりが、行政・民間一体となって進められています。

## ポイント

こんな苦勞が

- ・平成7年の阪神・淡路大震災により、歴史的なまちなみの大半が失われ、酒蔵通りでの景観まちづくりが挫折しそうになりました。こうした中、積み上げてきた取組を次の世代に引き継ぐため、被災をまぬがれた酒蔵の利活用、白壁の修景、蔵をモチーフとした祭の実施など残された資源を一つ一つ大切に活用していくことで、現在の歴史的なまちなみの形成につながっています。

ココがコッ！

- ・行政等が主催する表彰制度での受賞は、取り組む人のモチベーションを上げるとともに、周囲からの信頼や認知度も向上します。伊丹酒蔵通り協議会は、国土交通省の「美しいまちなみ優秀賞」や兵庫県の「人間サイズのみちづくり賞」などを受賞し、エリアの価値が向上してブランディングにつながっています。
- ・行政による景観形成地区指定に向けた働きかけが、住民の景観まちづくりの意識醸成の場となりました。その結果、「まち灯り」「伊丹まちなかバル」 「白雪蔵まつり」など民間による様々な取組へと結びついています。



整備されたまちなみ

この事例をもっと知りたい場合

伊丹市都市計画課

TEL 072-744-2262